第４回南砺市立学校のあり方検討委員会

令和5年3月9日（木）　午後7時00分
南砺市地域包括ケアセンター　多目的研修室

１．委員長あいさつ

２．報告事項
（１）第３回学校のあり方検討委員会グループワークでの主な意見　資料１

（２）第３回学校のあり方検討委員会後の質問・意見等　資料２

（３）南砺市小中学校の普通教室数について　資料３

３．協議事項　資料４
（１）南砺市における学校の適正規模について

（２）各地域における学校のあり方の検討について（時期と手法）

―　各委員の意見発表（１人２分以内）　―

４．次回協議会の日程　　第５回検討委員会　　令和５年　月　　日（　）

５．副委員長あいさつ

資料１

第３回学校のあり方検討委員会グループワークでの主な意見

	（１）学校の適正規模について	（２）各地域における学校のあり方の検討について （時期と手法）	その他
城端	・地域優先ではなく、子供ファーストで考えるべき。 ・城端中学校の３年生は、他の学年より人数が多くメリットが大きい。	・地域に任せるのではなく、教育委員会が主導すべき。 ・各地区で単級になる場所が違うと、整合性が取れない。 ・地域が決めるにしても荷が重い	・統合するなら中学校2校程度。 ・クラブチーム化が進んで、部活動が必要ない流れになっている。 ・城端中学校は（施設等の）環境が良いので統合するのは勿体ない。 ・既存校舎を使わなければならないので、2校にするなら場所が問題。 ・校長は2年で代わるので、各学校の特色は出せない。 ・義務教育学校は試行錯誤しているところ。
井波	・1クラス30名未満になるなら手厚い教育になる。 ・教員が若いので、1クラス35人だとちゃんと見られるのか心配。 ・今は行事の規模は縮小しているが、学びは保障されている。 ・現在、人間性を育てるにはいい状況である。 ・2クラスだと苦手な人とクラス替えで、違うクラスになれる。 ・単級は人間関係が心配。 ・10年～15年のスパンで教員配置数のシミュレーションが必要。		・学校がないと井波から福野、砺波に出ていくのではないか。 ・地域性を大事にしたい。これが財産である。
福野	・中学校では小学校より一回り大きくなった方がよい。	・各地域ではなく、全域でどうするか考えなければならない。 ・平・上平のときは旧村の考え方の違いで、それぞれの地域に学校を設置した。同じように上手くいかないのでは。 ・5年先なら統合は可能なのか。 ・10～20年後を見通した「5年後の方向性」を出す。	・市P連では中学校は統合との意見が多い。 ・（統合しようとしても）教室不足になるかも。 ・既に改修が済んでいるので、（新校舎での）統合は難しいのでは。 ・将来的に統合は必要だが、地域の繋がりが薄れるのでは⇔お互いの地域を知り合うきっかけとなる。
福光	・適正規模が実態に合わないのであれば、柔軟に対応すればよい。少人数で基礎学力を高めることが大切。 ・1クラスが36人となるか18人となるかで大きく違う。 ・単級にメリットがあるとは言い切れない。 ・義務教育学校にしていきたい市教委の思いが見える提案である。 ・中学校は、複数学級ある方がよい。 ・切磋琢磨できるのは、2クラス以上の学校である。 ・小学校地域ごとの学校で、中学校はクラス替えがある状況がよい。	・福光南部小学校を当面どうするかの方針をこの会で示すとよい。 ・福光は統合か義務教育学校化かを考えればよい。 ・南部小学校は、どうするか早めに考える必要がある。	・中学校の統合に保護者の抵抗は少ない。地域の理解を得るには、相当の時間がかかる可能性はある。 ・義務教育学校のよさもある。小中一貫、中1ギャップの解消等。それ以上メリットがあるのであれば統合もOK。 ・中1ギャップやクラス替えなどの変化にも対応し、乗り越えていかないと社会に通用する児童生徒を育てられないのではないか。 ・義務教育学校は、9年間を見通した一貫した教育ができる。有名私立校のカリキュラムもそうなっているので、義務教育学校のメリットも捨てがたい。 ・福光で義務教育学校は、現在のままであれば、ハード面で無理があると考える。中学校が1つ、小学校が2つ、が適正ではないか。
平・上平 （義務教育学校化に向けた意見交換）	・保育園と小学校1～4年生を上平キャンパスの方で合同でという案が教育委員会から示されていたが、保育園と小学校は分けて考えてほしいというのが地域としての意見。 ・小学校及び中学校保護者へ学校のあり方について、PTAでそれぞれアンケートをとったところ、義務教育学校化やむなしと考えている保護者は多い（保護者の9割程）。ただし、2キャンパス化とすることについて、反対の保護者は多く、1つのキャンパスで合同とするのであれば…、という保護者が多い。 ・教科（数学や英語等）の専門の先生がいるという点で共通しているので、中学校と平高校を一緒にしたら良いと思う。（その場合は高校も絡んでくるので県にも携わってもらう必要は出てくるとは思うが。） ・使用しなくなった小・中の校舎に平高校を持ってくるという手もある。（平高校は校舎の老朽化が進んでおり、耐震工事等もままならない状態であるため。） ・小学校1～4年生と5・6年生が別キャンパスになるのは反対。5・6年生が学校内にいないということは（行事の先導等の観点で）リーダー不在となってしまうということ。1～4年生に5・6年生のようなリーダー的役割を任せることは1～4年生の児童の負担にもなりうる。		
井口・利賀 （義務教育学校化に向けた意見交換）	・つばき学舎には、何人か他地域からも来ているが、たくさんの人数だと義務教育学校の良さがなくなる。 ・地元の子さえやっていないことを山村留学生はやっている。学校活動以外で、いろいろなことをやっている。 ・自学の時間が、今後どのような成果がでるか。井口では、英語を1年生からやっている。 ・運動会なども、勝ち負け関係ない。1年生から9年生までで、こどもたちで主体的に役割を考える。リレーの順番など。 ・幼保小中の12年教育であるが、ある程度切り分けが必要であると思う。 ・平野部で東と西で統合中学校をつくればよいと考える。山村部、井口は、遠距離であるため、義務教育学校化で良い。 ・利賀地域は、山村留学等を積極的にアピールした方が良い。		

資料２

第３回検討委員会後の質問・意見等について

（１）学校の適正規模について

【質問１】　「単級」と「少人数」について、資料２「教育委員会の見解」の中の「手厚く配置できるのが単級の学校であり・・」の意味がよく分からない。中学校の教科を見据えたことなのか、それとも、人数の少ない学級を単級と捉えているのか説明がほしい。授業で意見を交わすことは別問題として、児童生徒に基本的な学力を付けるには、人数が少ない学級のほうがいいと考える。

【回答１】　単純に生徒の数を教員の数で割り返した場合に、単級の学校は児童生徒数が少なくなればなるほど、１人の教員が指導できる人数が最も少なくなり、手厚く指導できるということを示しています。ただし、学年２クラスであっても、単級ほどではないものの、１クラス当たりの人数が減れば、教員１人当たりが指導できる人数も減っていきます。よって、現在の多くの中学校が２クラスである現在の環境は恵まれていると言えます。

【質問２】　「義務教育学校」に関することについて、福光地域を除いた南砺市の学校は１小１中であるが、南砺つばき学舎のイメージが強いことから、南砺市の学校を全て義務教育学校にすると勘違いしている委員もいるようである。南砺市は新校舎を建てずに既存の校舎を使用することから、南砺市の「義務教育学校」は小中学校が同じ敷地内にあり、廊下等で小学校と中学校とが結ばれているものと考える（だから義務教育学校の教員は小中の免許を持っていることで、互いの学校を行き来して授業をしている）。この点についても説明があるとよい。

【回答２】　前回の学校あり方検討委員会において、小中学校は地域毎にどちらかの校舎を利用し義務教育学校とする方向性を示す提言が出されました。このことがクローズアップされていますが、同時に保護者が望み地域が了解すれば再編統合も検討するとしています。今回のあり方検討委員会ではこのことをより具体的にするために、複式学級又は単級となる５年前を目途に地域において統合するか地域において検討していただくことを提案しています。

【意見１】　児童・生徒が、たくさんの人と関わり合い多様な価値観を認め合いともに成長していくためには、文科省が示す標準学級数がある学校規模が適正なのではないかと思います。単級になり人間関係が固定化することによって、学校の価値が失われるのではないでしょうか？すでに様々な弊害が起こっていると感じています。

【見解１】　文部科学省が示している学級規模は、単に学校を設置するための標準的な規模を示したものであり、教育的な観点から示されたものではありません。地域性に応じて必ずしも標準規模に拘る必要はないとしています。

教育委員会としては、市域の広い南砺市においては無理に統合するよりも、現在の充実した教育資産を活かしながら、少人数で教育を行っていくメリットの方が大きいと考えています。

（２）各地域における学校のあり方の検討について（時期と手法）

【意見１】　小学生の間は、通学にあまり時間がかからず、歩いていける距離が望ましい。少人数で授業を進めていくことで、個別の指導に時間を割くことができる。中学生になると、体力がつき、行動範囲が広まる。また、多くの友人と切磋琢磨することにより、学習や部活動、生徒会活動に深みや幅が増してくる。そこで、福光地域は、２小（＋南部小）１中としたい。そのためには、中学校の統合に関して準備委員会を設立し、早急に進める必要がある。中学校が１つになることにより、南部小学校を卒業した後、福光中学校と吉江中学校に分かれて進学しなくてもよくなる。

【見解１】　地域において複式学級となる５年前を目途に検討していただくことを提案していますが、地域がもっと早い検討を望まれることは問題ありません。

【意見２】　検討委員会が行われている今、まず全地域の保護者や子どもの意見を聞くべきではないでしょうか？

【見解２】　市が置かれている現在の状況や、統合の条件などをご理解していただいた上でご意見を聞くことは重要ですが、そのためには手法などを慎重に検討する必要があると考えます。令和３年度に市ＰＴＡ連合会が実施されたアンケートでは、統合を望む声は２割程度でした。

（３）その他のご意見等

・　福光地域以外は、既に１小１中となっていることから、今後は「小中一貫教育」を推進していくとよい。これは、共通の教育目標を定め（その後、小学校と中学校も定める)、地域に生きる児童生徒に関して９年間の学びについて、小学校と中学校とで協議し、グランドデザインにまとめ（地域にもアナウンスする)、９年間の学校生活の中でいろいろな活動をとおして（小中学生の交流を含む）児童生徒の育成を図っていくものである。この小中一貫教育によって、「地域にこんな素晴らしい人・もの・ことがある」「この地域に生まれてよかった」「今度は自分たちが地域を作っていこう」という気構えが児童生徒に生まれ、「ふるさと教育」とも共通する。

・　利賀地域は「義務教育学校」となることが適している。

・　福光南部小学校は現在、川の東と西によって、進学する中学校が分かれるが、福光中学校と吉江中学校とが統合するまでの間、進学先の中学校を選択できる地域にするという考えもある。

・　富山市で実施されている「学校選択制」という考えを、南砺市でも取り入れるのもいい（校区外からの人数を制限して募集する方法)。これにより、城端地域の最後の発表にあった「単級の城端中学校には進学したくない」という考えから少しは、回避できるものと考える。中学校の部活動に関連してくるが、学校を選択する目的（友達、人数、部活動、地域、校舎　等）によって、部活動の部分もある程度クリアできるのではないかと考える。

・　平・上平地区の「平キャンパス」と「上平キャンパス」の発想はユニークだが、学年の区切り等を考えると、なかなか理解を得ることは難しい。それよりも、話のあった平中学校と平高校との共存については、中高一貫教育や中等教育学校に向けて協議を進めていけば平・上平地区の教育は面白い存在となる。

・　利賀地域では「南砺利賀みらい留学生」として十数名の子供達を受け入れ、成果が上がっているとのことだった。後日、ホームページを見ると、地域外の子供達が地域の子供達と一緒に利賀の自然や文化に触れ、そして勉強している姿があった。地域の魅力を発信することにより、共感する人達が集まることが分かった。義務教育学校設立により、地域内外の子供達の学びの場になるよう、協力していきたい。

・　グループワークの発表の中で中高一貫教育の話もあったが、南砺福野高校と福野中学校が隣接しており、いいのではないでしょうか。富山県立高校も今後は特色ある教育が求められてくる中で、一貫教育の検討の余地があるのではないか？

JR 城端線に新福野学校駅を作ることにより、東西の連絡を行きやすくする。そして、氷見地区、高岡地区、砺波地区の中学生、高校生の通学の利便性を上げる。

南砺福野高校の特色である、国際科、農業環境科、福祉科の教育環境を中等部においても一部学習できるようにする。

県から教員や教育費の補助をいただくことができ、南砺市の教育費の軽減になる。など、多くのメリットが期待できる。

・　平、上平の義務教育学校の中に保育園との連携案が示されている。これが良いものなら、今後進めていく利賀地域やすでに義務養育学校になっている井口地域にも取り入れるべき。

・　中学校に関しては統合を望まれる保護者の方が多いように感じます。部活動の拠点校化に関しては望む声はあまり聞かれないのに進めようとされていて、統合については以前から望まれる声があるのに議論や検討がされないのはなぜでしょうか？

資料３

南砺市小中学校の普通教室数（旧町部）

学校名	普通教室として使用できる教室数	現在のクラス数（特支含）	差引	１学年当たりの最大クラス数		
				６学年の場合	３学年の場合	９学年の場合
城端小学校	18	14	4	3.0		2.0
井波小学校	19	14	5	3.1		2.1
福野小学校	24	23	1	4.0		2.6
福光中部小学校	23	16	7	3.8		2.5
福光南部小学校	13	8	5	2.1		1.4
福光東部小学校	17	12	5	2.8		1.8
城端中学校	15	9	6		5.0	1.6
井波中学校	13	8	5		4.3	1.4
福野中学校	12	11	1		4.0	1.3
福光中学校	15	8	7		5.0	1.6
吉江中学校	9	8	1		3.0	1.0

資料４

各委員からの意見発表について

第２回と第３回の学校のあり方委員会においては、（１）「南砺市における学校の適正規模」と（２）「各地域における学校のあり方の検討」について、市教委からの説明を基に、地域毎のグループワークを行い、考えを深めてきました。

グループワークでは２つの項目のみならず様々な観点から意見が交わされてきましたが、第４回委員会では、第２回委員会資料５および第３回委員会資料３として提出しました、令和１５年までの児童生徒数の推移を踏まえ、地域毎ではなく南砺市全体の学校の方向性について、委員全員から各自の意見を１人２分以内で発表していただきます。

なお、平、上平、利賀、井口地域選出の委員におかれましても、今後の方向性によっては、統合の対象となっていくことも考えられますので、市全体としての考えを発表していただきたくお願いします。

●注意事項

ⅰ　市全体の学校の方向性についての意見を発表してください

ⅱ　数十年後の未来ではなく、令和１５年までをイメージしてください

ⅲ　学びの場としての学校のあり方に絞って考えていただきたいため、部活動に対する意見は除外してください

ⅳ　統廃合のための新しい学校は新設しないことを前提としてください

≪発表内容≫

令和１５年（市全体２２０人／学年）までの姿をイメージし、自分の住む地域についてではなく、南砺市全体の学校の方向性について、教育委員会の対応案に対する各自の意見を述べてください。